

未知なる
スイス

Autumn
2016 No.47
1110yen

CREA

クレアトラベラー

Traveller

新しいニッポンに
新しいバッグを!

ウィーン
美と音楽に浸る旅

未知なるスイス

Beyond Amazing
SWITZERLAND

村いちばんのホテルは、かつての貴族の大邸宅！



1 肉も野菜もソリーオ産を中心に使用し、上質な美味しさを実現した“仔牛の煮込み”。付け合わせの青いジャガイモはエンガディンの名産。2 “庭で摘んだハーブのガーデンサラダ”。3 美しい光が射し込むダイニング。



“ヒストリック”の客室。天蓋付きのベッドは、なんと1629年に作られたもの。本物のアンティーク調度品が、ゲストに特別な滞在時間を提供する。

Hotel Palazzo Salis

ホテル・パラッツォ・サリス

17世紀に建てられた名門貴族のゲストハウス

村の中心に立つ優雅な白い建物は、名門貴族サリス家が代々受け継いできた大邸宅。1630年に建てられた後、1876年からはゲストハウスとなり、セガンティーニやリルケらも滞在を楽しんだ。現在は、スイス有数の歴史的ホテルとして知られ、今春からはおもてなしのスタイルをさらにブラッシュアップ。時代を感じさせる風格あるインテリアに、現代の感性を取り入れたホスピタリティが絶妙に調和し、心静かに自分だけの時間に浸ることができる。

DATA Villaggio 131, Soglio ☎081 822 12 08 www.palazzo-salis.ch
客室数/16室 宿泊料金/1名CHF155~213 (夕朝食付き)
※11~4月は休業



4 優美に花々が咲く中庭。5 今春からおもてなしを任せられたクリスティアンさんとモニカさん。6 ゲストが連れてきたワンちゃんものんびり。7 フラワーアレンジなど、すみずみにまでセンスのよさが光る。

個性豊かな村や町が数多くあるエンガディン。その最奥である西南部にまで足を延ばすと、ツォーツをはじめとしたこの地方の典型的な村とはまたひと味異なる、美しい情景に出会うことができる。その代表格といえば、ソリーオ。シオーラ連峰を望む標高1090メートルの山上にあるこの村は、イタリア国境がすぐ目の前。主にロマンシュ語文化圏のエンガディンだが、この一帯だけはイタリア言語圏となっている。

人口約150人という、本当に小さなソリーオだが、この地には、人々を惹きつける不思議な力があるようだ。今から200年ほど前に建てられた石造りの家が細い道に沿って並び、お店も数軒あるのみ。有名な観光名所やランドマークがあるわけでもない。だが、迎撃境であるがゆえに残された素朴な風情は、古くから芸術家たちを虜にしてきた。ヘルマン・ヘッセ、リルケらの詩人・文豪たちが静かに思索を巡らせ、画家セガンティーニは、アルプスを題材に数々の代表作を描き上げている。

現在では、都会からあえてアトリエを移したクリエイターたちも暮らしているソリーオ。ここにあるのは、古き時代と変わることはない、ただ質朴としてゆったりとした時間の流れ。それこそが、この村のいちばんの魅力なのだ。

芸術家たちに愛された素朴な風情が美しい

何もない贅沢を満喫する
スイス最奥の村、ソーリオ

SOGLIO

ACCESS サン・モリッツからカスターセーニャ(Castasegna)行き、またはキアヴェンナ(Chiavenna)行きのバスでプロモンターニョ(Promontogno)下車、ソーリオ行きに乗り換える。所要時間約1時間20分～1時間45分。

1 かつてセガンティーニが「天国の入り口」と賞賛したソーリオの風景。ブレガリアの谷の向こうにシオラ連峰が見える。2 ミルクを集めてまわるチーズ屋さんのハイジさん。3 質素な石造りの家が並ぶ道。猫ものんびり……。4 今もそのまま残る村の共同洗濯場。5 心が和む村の光景。6 花崗岩と木材で造られた古い建物。

